



## 第2次水産業改革委員会

# 輸出入に関する問題点と改善提案

2018年7月27日  
代表取締役社長 執行役員  
的埜 明世

日本水産株式会社

# 1、輸出に際しての問題点と改善希望

## 1) 米国への養殖魚輸出

日本で認可されている養殖魚用薬剤がUSAでは使用不可。EU同様にUSAでも日本国内の基準を準用することが承認されると養殖魚の輸出量が増加する。

## 2) 日本産水産物のプロモーション強化。

海外各国に於いて、日本産の水産物を紹介する機会を多く設定し、海外市場での認知度を高めることが必要。

## 3) 日本からの輸出作業の簡略化と迅速化。

輸出証明書や放射能証明書の発行を簡潔且つ迅速化する。更に輸出相手国のルールに合わせて公的機関がサポートする機能が充実すれば、輸出が増加する。

## 4) 各国に於ける輸入通関作業の簡略化と迅速化。

外交を通じて、現地での輸入通関作業を簡潔且つ迅速化することにより、日本からの輸出が増加する。外交努力により、これらの書類が撤廃されることが望ましい。

## 5) 水産物の輸出に向けた連携

輸出対象魚の特性を生かして輸出先国を選定し、盛漁期に合わせた漁獲・加工を漁業者・加工業者・輸出業者間で総合的に進めることで輸出量を増加させる。

## 2-①、輸入に際しての問題点と改善希望

### 1) グローバルスタンダード

日本独自のルールがある場合は極力世界基準に合わせるべきであり、また正当な理由、特殊事情がない限り、日本産と輸入品を同等のルールで扱うべき。

### 2) 種苗の輸入

チリのS/A社で選抜育種した種苗を輸入して日本で養殖できればメリットが大きい。現状では、発眼卵の輸入が許可されているのはUSA・カナダのみであり、英国とデンマークを検討中。他国からの輸入は、魚病の関係で禁止。

### 3) 水産物の管理

漁業資源の管理及び養殖漁業に関する法規制が整備されている場合、安定的な買い付けが期待できる。更に、積極的な投資も検討できることからメリットは大きい。

### 4) IQ枠（輸入枠）

国内漁業者を保護する目的で水産物の輸入枠が設定されているが、様々な物品の輸入が自由化される現状下、輸入枠の意義について検証する必要がある。例えばカンパチの稚魚は30cm超えるとIQ対象となり、養殖業者がIQを持たない場合は枠代を払って輸入している。枠代は製品コストに加算されることから結局は消費者負担となる。

### 5) 税関によるモニタリング方法の見直し

スリミの輸入に際して地方税関の検査体制に温度差があり、対処方法の平準化を希望する。スリミの関税が生産国・魚種毎に設定されているが、関税を同一して低減して頂きたい。

### 6) ロシアからの水産物輸入

- ・助子の検品入札会は年間十数回釜山で行われており、100名を超える日本人が釜山を訪問。入札の胴元は韓国の代理店が行い、ロシア生産者の承認を経て価格を決定するが、韓国経由により無駄なコストを要している。
- ・ロシアからの地理的条件や市場規模を考慮した場合、石狩、函館、新潟、福岡などでロシア水産物の貨物を集荷出来る様になれば、地域振興に繋がり、輸入業者も検品買付業務のコストを抑えられる。
- ・上述の港を拠点にした、日本ならではの保税輸出加工や、冷凍保管業務の新たなビジネスチャンスが期待できる。

# ご静聴有難うございました。

## True Global Links

